

Discover Chiba

千葉が誇る

日本一



千葉県PRマスコット
キャラクター チーバくん
千葉県許諾第A3-45

第4回

八千代台団地

《今回の日本一》

・住宅団地発祥の地



八千代台団地 住宅団地発祥の地!



八千代台駅前にある記念碑(平成24年12月:撮影)

京成八千代台駅の西口を出て、ロータリーを左方向に歩いていくと、舗道の上に建つ1つの石碑に出会います。刻まれているのは「住宅団地発祥の地」の文字。千葉県住宅協会(現在の千葉県住宅供給公社)が発足して初の事業が、この八千代台団地の造成・分譲事業で、昭和30年の誕生から10年後の昭和40年、改めて日本初の団地造成の意義深さを讃えて建設した記念碑が、今も街の象徴として存在しているのです。(右は記念碑設立頃の航空写真)

広大なすすき野原に街を建設する壮大なプロジェクト。その後の開発のモデルケースに。

日本で初めての大規模宅地造成地に選ばれたのは、明治以来、習志野騎兵旅団が駐屯していた広大なすすき野原。昭和29年に、2つの村が合併して町になったばかりの旧八千代町内の広大な国有地でした。約13万坪の土地に駅を新設し、そこを中心に放射線状に道路を敷き、ひとつの「街」を建設するというのは、当時、他に例がないほど画期的な都市計画でした。人々が快適に暮らせるようにガスを引き、上下水道を完備するための工事を行い、商店、学校、公園、そして役所や駐在所までも建設



ちゃぶ台からダイニングキッチンへ。憧れのモダンな台所。

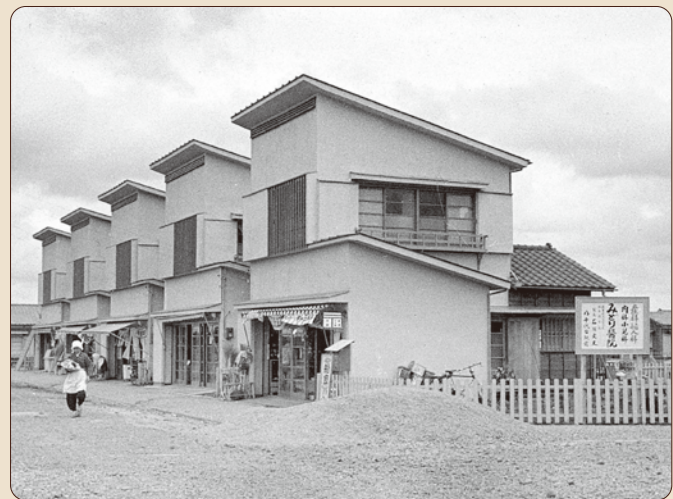


昭和42年頃の八千代台駅北西地域

するという壮大なニュータウンの造成プロジェクト。団地には木造の平屋住宅が大部分を占め、憧れの住まいの象徴でした。八千代台団地は、その後に続く団地開発のモデルケースとして大きな役割を果たしました。

『団地』という言葉が生まれたのも ここ、八千代台団地から。

昭和30年に造成が完成し、分譲が始まった当初は「八千代台集合住宅」と呼ばれていましたが、一般公募で「八千代台団地」と正式名称が決定し、昭和32年頃から広く使われるようになります。新しく造成されたニュータウンを意味する「団地」という言葉が生まれたのも、実は八千代台団地からです。名実ともに日本初の団地の第1期分譲が開始されたのは、京成八千代台駅開業と同年の昭和31年4月。以来、昭和34年までに面積419,697平方メートル、計画戸数1,114戸、計画人口約4,500人の「八千代台団地」が誕生しました。



八千代台駅前の店舗併用住宅。団地の人々に食料や生活用品を売る店主たちもまた、街の新しい住人でした。

京成線沿線にモダンな住宅の新しい街ができる。沿線の駅にポスターを貼り、積極的なPRをしていましたね。



写真家
澤本 吉則 さん

プロの写真家として50年を超える活動を通して、千葉の自然や史跡、昭和から平成への開発の足跡を撮り続けてきた。写真集や写真詩集など、著書も多数。千葉市在住。

かけです。当初は集合住宅って言うていましたよ。京成の八千代台駅はまだ開設してなくて、実碓の駅で降り、カメラを担いで歩いて現地に行ったものです。はじめは何もない野原と雑木林で殺伐としていましたね。30

昭和30年頃、私は駆け出しのカメラマンとして千葉に住んでいたのですが、ご近所に、千葉県の副知事さんも住んでいらしたんです。フリーのカメラマンなんて当時は珍しいですし、副知事さんも私に興味をもってくれて、よくお宅へ遊びに伺うようなお付き合いをさせていただいていました。ある時「今度大きな集合住宅を作るんだ。どうだね、澤本君、開発から完成までの記録写真を撮ってみたいか」と言われました。それが八千代台団地を撮影することになったきっかけです。当初は集合住宅って言うていましたよ。京成の八千代台駅はまだ開設してなくて、実碓の駅で降り、カメラを担いで歩いて現地に行ったものです。はじめは何もない野原と雑木林で殺伐としていましたね。30



昭和33年3月発行の科学雑誌「科学朝日」の巻頭グラビア5ページに渡り、「ニュータウンの誕生」として八千代台の開発が特集されている。掲載されている写真は、すべて澤本さんの撮影によるもの。

メートルぐらいの水道塔ができていたので、そこにより登って、造成が進み、街区ができ、家々ができていく様子を撮り続けました。1ヶ月に2回ぐらい行くのですが、その度に景色が変わり、街が出来がっていくのを実感しました。商店や水道工事屋、駐在所、貸本屋なんて店もできました。他の町では1坪3,500円ぐらいが相場でしたが、八千代台は1坪5,000円。みんな高いねえなんて驚いていましたが、当時の庶民の家はトタン屋根。ところがそこは瓦屋根で



すからね。「モダン住宅」と言って憧れの的です。定期的に団地に行っていると、すでに入居しているご家族と親しくなっただけ。ビールをごちそうしてくださるご主人なんかいて(笑)。都内から我が家を求めて引っ越してきた豊かな方々が多かったんです。お礼に家族写真を撮ってあげると喜んでくれました。私もいつかはこんな家に住んでみたいと思ったものでした。



当時、モダンと評された戸建て住宅。初期の八千代台団地の多くが、このタイプの平屋家屋だった。

《参 考》

■昭和31・32年頃の物価等

- ・ラーメン 1杯 ……………40円
- ・牛肉(肩肉)100g ……………36円
- ・鶏卵 1kg ……………226円
- ・大卒の初任給 ……………8,000円

写真で見る八千代台団地の移り変わり



建設中の住宅(昭和30年頃)



工事中の八千代台駅前
(昭和31年頃)



開業当時の八千代台駅
(昭和31年頃)



昭和40年頃の八千代台駅前の
八千代デパート(現:アピア)



昭和40年頃の八千代台駅前



至大和田駅(成田方面)

八千代台駅

八千代台分譲住宅地

当時の資料を基に書き起こしておりますが、実際とは若干異なる部分があります。

至実碓駅(津沼方面)

昭和57年頃の八千代台駅周辺
左ページの航空写真に比べて囲い部分以外も開発されています。

インタビュー

八千代台駅前、日暮里や青戸に次いで地価の高いにぎわいの街でした。

私どもの店舗の前身である八千代デパートが創業したのは、昭和37年でした。先代の社長が八千代台団地の造成で人口が増加し、さらに発展が見込まれる地域だと考えて、京成本線八千代台駅西口に直結する現在の場所に店舗を構えたのです。昭和37年当時は、すでに団地の開発も進んでいて、駅周辺の街並もできあがっていましたね。当時は3階建てで食品スーパーに靴屋、書店、食堂を展開していました。八千代台駅周辺は、京成線沿線では都内の日暮里、青戸に次いで地価が高く、ますます発展する街だと言われていました。昭和37年から昭和48年までの11年間は創業当時の3階建ての店舗で営業していましたが、本当ににぎわいがあり、今、思い返しても右肩上がりで成長した良い時代でした。



株式会社アピア
常務取締役
本間 清次 さん



昭和37年創業当時の「八千代デパート」

自治会の皆さんが企画して始まった夏まつりは毎年盛況で、駅前にある私どもの店舗もさまざまなイベント企画でまつりを盛り上げるお手伝いをさせていただきました。地域住民だけでなく、わざわざ遠方から八千代台の夏まつりに行こうという方々がいっぱい駅で降りて、本当に駅前はずい人ばかりでしたね。



昭和49年に現在のアピアビルになりました。

現在の八千代台駅周辺の道路や区画は当時のまま。しかし、建物の表情は様変わりしていました。

八千代台団地が誕生してから約60年近くが経過しました。当時は町だった八千代も、昭和42年に八千代市となり、現在では人口193,180人(平成24年11月末日現在)を超える人々が暮らす都市に成長しています。



八千代台駅西口の歩道橋から東口方面を望む



ほとんどが新しい住宅に建て替えられた旧住宅地

す。八千代市は、千葉県内で最も早い時期に住宅開発の波が押し寄せた街。昭和31年に第1期の分譲を開始してから半世紀以上の歳月の中で、建物の建て替えなどにより誕生当時のままで残る家屋は数えるほどになっています。



知ってる?

知らない?



● 八千代台団地 街角ウオッチング!

人々に愛されてきた、この店!この味!

不二家 八千代台店 (八千代台駅西口駅前)

ペコちゃん人形のマスコットでお馴染みの不二家のレストラン。開店当時の31年前からある「焼きたてホットケーキ」は、不二家ならではの懐かしいメニュー。不二家フランチャイズレストランとして、子供から大人までみんなに愛される料理とデザートを提供してくれます。1Fにあるケーキショップで買ったケーキを2Fレストランで食べることができるのも嬉しい。



◇季節の日替わりランチ
「ハンバーグステーキと
広島産のカキフライ」
ライス・スープ・コーヒー
or紅茶 ¥700(税込)

● 八千代市 八千代台北1-2-1 TEL.047-482-2713
● 営業時間／午前11時～午後6時

ラーメンパンケ (八千代台駅西口から徒歩1分)

千葉県の札幌味噌ラーメンの元祖として、昭和51年に創業した老舗ラーメン店。ゲンコツや鶏ガラをじっくり煮込んだコクのあるスープに、白味噌と赤味噌をブレンドしたピリ辛でまろやかな味わい。札幌のブランド麺、西山製麺所の中太ちぢれ麺のツルツルシコシコとした食感とともに、いつ食べても飽きのこない味噌ラーメンの王道を堪能させてくれます。



◇みそラーメン
¥720(税込)

● 八千代市 八千代台北1-9-3 TEL.047-483-6436
● 営業時間／午前11時30分～翌午前1時(月～木・日)
午前11時30分～翌午前2時(金・土)